

さかの民話

語り継がれた民衆の文化

講演者 西九州短期大学部講師 宮地 武彦氏



「親不孝蛙」が伝える教訓

民話とは何かを考えると、昔話と伝説の違いに触れなければなりません。昔話は「ううむかし」で始まり、登場人物はわかりません。伝説は「いつどこで、だれが、どうした」と展開し、事実・真実だと信用されがちです。

伝説の特徴は結論からも語れる内容であり、昔話は同じことを繰り返します。聞き取り調査から言えば、12歳くらいまでの記憶が鮮明でした。繰り返し語り聞かせていたからです。

佐賀県内で聞き取った民話のうち「親不孝蛙」の延べ650話です。親の言うことに反対ばかりせずに親の言うことを聞きなさいという教訓は近世以降に付け加えられました。でも、今では幼稚園の先生もその民話を知りません。今の子供たちは不幸だと思います。



「佐賀の民話」からのイラスト

神埼市で聞き取った昔話のうち、40%が旧神埼町、46%が千代田町、脊振町は13・8%でした。たまたま「神埼町史」編さん、「千代田の民話」出版のため、両町を中心に聞き取り調査をしたためであって、脊振町も調査したからたくさんあるはず。脊振の岩屋に伝わる「猿の婿入り」は農家を干ばつから救うため、猿の嫁入りを決意した農家の末娘、というよりも末っ子相続が背景にあつての話です。これは3ヶ所です。

あなたもふるさと学芸員

「神埼塾」の講演から①

民話で語りつなぐ心

囲炉裏端や寝床で



「親不孝蛙」を演じ子供たちに伝えた「お話し会ケムケム」のメンバー

昔話の語り収めは「そいばつきやあ」。地域で表現は少し違いますが、一話ごとに収め言葉がつかま。囲炉裏端やかまどや寝床で、祖母や母から聞かされたものです。佐賀の昔話の特徴は、唐津の裏町勘右衛門（裏町かんね）話です。ずるがしこいが時には失敗するから憎めない。勘右衛門話は唐津、多久、小城、佐賀市にも伝わっています。なぜこんなに広がったのでしょうか。伝承には、目の不自由な琵琶弾きさんたちの役割が大きいようです。宿泊先の檀家で夜な夜な昔話を語ったといえます。神埼地方には「親不孝蛙」のほか、「子育て幽霊」「猿どん蟹ど

語り伝える大切さ



民話聞き取りの様子（昭和42年ごろ）

昔話の場合、聞き手は語り手に相槌を打つ、それで語り手も聞き手の心に届いたことを納得し、話を先へ進めます。そうした繰り返しで、昔話は知らず知らずのうちに、心と心をつなぎ、子供たちの心の豊かさを養っていったのです。昔は生活の中に入り込んできた昔話が、今は入り込むじやなく出て行くようになったようです。テレビやラジオ、文字を通じてではなく、昔のように人から人へ語り伝えるやり方を、どうやって取り戻すか。今後、とても重要なテーマです。

んの餅争い」「十二支の由来」「雀と燕」「大蛇退治」などたくさんある民話があります。脊振町の鳥羽院という地名は承久年間に後鳥羽上皇がひそかにこの地に逃れ、地元民の親切で空腹と寒さをしのぎながら生活したことになむと伝えられています。

神埼の動植物

水辺の植物と環境保全

講演者 西九州大学准教授 上赤 博文氏

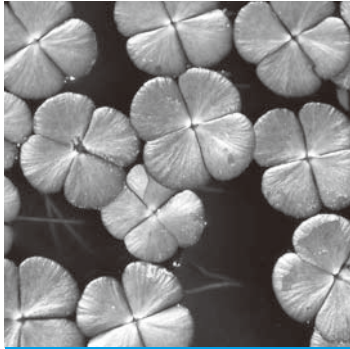


環境に敏感な生き物

佐賀平野では、堀干しや「ごみくい」という泥土上げを繰り返しながら田んぼや堀の水環境が確保され、昆虫や魚、植物の生態系も維持されてきました。

圃場整備でその循環が断ち切れ、農業や水質悪化の影響も加わり、動植物の生息環境は大きく変わりました。

しかし、全国的には絶滅寸前の植物が、佐賀にはまだ色々残っています。四葉のクローバのような形をした水田雑草「デンジソウ」は除草剤の影響でほとんど消えました。しかし、ちよつと環境が変わるだけで猛



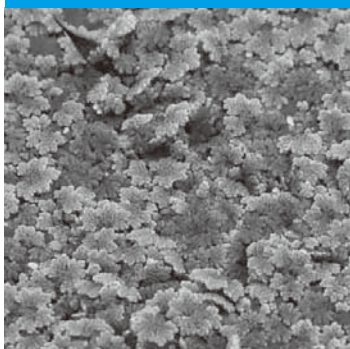
デンジソウ



アサザ



ノウルシ



ニシノオオアカウキクサ



ボタンウキクサ

繁殖する

オオアカウキクサ

千代田で昨年から外来の「オオアカウキクサ」が猛烈に増えています。夏は緑色ですが、冬は赤くなります。この水草は急増したかと思えば、2年くらいで消滅することもあります。

烈に繁殖したり、他の植物に駆逐されたりすることもあります。神埼、千代田を流れる中地江川には貴重な植物「アサザ」があります。土木事務所が保護区域を設けているので、これは維持できるでしょう。早春に黄色い花をつける「ノウルシ」は県内では佐賀市兵庫町から神埼市にかけて生育しています。タヌキの尻尾に似ている食虫植物「タヌキモ」は九州では横武公園にだけに知られています。

生態系そこなう放流

水が富栄養化しているので、これを除去しても、別の水草が増えるだけです。繁殖する水草を定期的に除去することで水質を改善することが可能です。

外来種の「ホテイアオイ」は、花はともきれいです。クリークを覆い尽くし、冬場には枯れて底に沈み、富栄養化の原因になります。「ボタンウキクサ」も外来種ですが、鍋島町で「ホテイアオイ」をいじけさせるほど繁殖したことがあります。

外来種の中でも特に生態系や農作物、人間の健康に悪影響を及ぼすものは「特定外来生物」に指定され、輸入、飼育・栽培・保管・運搬などが禁止されました。「カミツキガメ」「ウシガエル」「ブルーギル」「ブラックバス」「セアカゴケグモ」「ボタンウキクサ」「オオフサモ」などがそうです。園芸や観賞用、ペットとしても購入した動植物を悪気はないにしても外部に放つことで様々な影響が出ています。

大切な自然の仕組み

メダカやホタルを復活させようという活動がありますが、よそから遺伝子の違う個体を持ち込んで放流すると自然の生態系を壊す恐れがあります。ホタルには、きれいな水辺があるだけではだめで、梢や草むら、土手など、成長段階に応じた生息環境を整備しないとダメです。コイの放流も、閉鎖的な池では生態系を攪乱させ自然破壊につながります。水質浄化に役立つ水草や底生動物を食べ尽くしてしまうためです。自然のしくみを理解することが重要です。

◎問い合わせ先

神埼市役所 市長公室

☎37-10102



ブラックバス